

# かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 18 No 02

199号

平成22年 2月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## 新しいワクチンについて

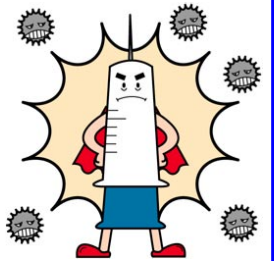
### 院長

最近新しいワクチンが認可され、予防接種の選択の範囲が増えました。今回は、これらの新しいワクチンについて、考えてみたいと思います。

最近と言っても1年以上前になりますが、皆さんがよくご存知のワクチンとしては、Hib ワクチンがあります。Hib というのは、ヘモフィルスインフルエンザ b 型菌です。Hib については、以前記事(平成20年5月号)にしたので、今回は詳しい説明は避けます。Hib は小児の細菌性髄膜炎の原因菌の一つですが、特徴が次に挙げる肺炎球菌と同様なので、以下の項目を参考にしてください。

もう一つ髄膜炎の原因菌として重要な菌が、肺炎球菌です。肺炎球菌というのは、その名が示すように元来肺炎で見つかる菌の一つです。もちろん肺炎だけでなく、中耳炎や敗血症、細菌性髄膜炎等を引き起こします。重症で命や後遺症が問題となる子どもの細菌性髄膜炎では、Hib が約60%、肺炎球菌が約30%で、両者で約90%を占めています。Hib と肺炎球菌は、よく似た特徴があります。両者とも健康な子どもの喉に常在菌として、存在しているのです。保菌しているからといって、普段の健康な状態では、特に症状はありません。しかし、カゼをきっかけに体力や免疫力が低下すると、体内へ侵入して病気を起こしてしまいます。ここで問題となるのは、保菌率です。ある研究データでは、保育園で集団生活をしている乳児では保育期間に比例して保菌率が高くなり、短期間のうちにほぼ100%見られるという報告があります。保菌しているということは、誰でも感染を引き起こす可能性があるということです。次いで問題となるのは、細菌の構造です。Hib も肺炎球菌も、莢膜(きょうまく)という殻を持っているのが特徴です。細菌が体に入ると、細菌を殺して体を守るためのいろいろな反応が起こります。体を守る反応には、白血球(好中球)が直接菌を取り込んで退治するもの、抗体と呼ばれる免疫によって排除されるものがあります。しかし、莢膜を持つ細菌では、好中球が取り込んで退治することができません。出生直後では母体から移行した抗体があるために感染が起こりにくい状況ですが、時間とともに抗体が減少し半年後には消失してしまいます。抗体の減少する3ヶ月から2才ぐらいまでの間は、髄膜炎のような重症感染症を引き起こされやすくなる時期です。5才を過ぎる頃になると細菌の暴露(接すること)により、抗体を獲得していくこ

とになります。免疫が減少してくる時期に、ワクチンによって抗体を獲得することができれば、重症な感染症を予防できることになります。この肺炎球菌ワクチン(プレベナー®)は平成21年10月に認可され、平成22年2月24日に発売予定です。接種時期と回数は、Hib と同じようになります。



皆さんは子宮頸がんという病気をご存知ですか。この記事を読んでいるひとの多くは、女性なので関心のある病気だと思います。この病気の原因が、ウイルスであることを知っている人は少ないかも知れません。日本では約15,000人が毎年子宮頸がんと診断され、2,500人もの命を奪う病気なのです。がんという高齢者の病気と思われがちですが、20～40才の若い世代ではがん死亡の第2位となっているのです。この子宮頸がんの原因のほとんどが、HPV(ヒトパピローマウイルス)によるものと考えられています。このウイルスは、性交によって伝播し、約80%の女性が生涯に一度は感染するとされています。もちろん感染した女性が、全員子宮頸がんになるのではなく、そのうちの1,000人に1人が、がんに行進といわれています。つまり、HPVの感染を防ぐことができれば、子宮頸がんを減少させることが出来るのです。子宮頸がんの死亡を減少させるための有効な手だての一つはがん検診ですが、日本での受診率は先進国でも最低です。この検診率を上げる以外に予防法は、HPVワクチンになる訳です。性交によって伝播するウイルスなので、ワクチンの接種時期はセクシャルデビューする前の11～14才が推奨されています。このように書くと、まるで性病のようなイメージを持つ人がいますが、正しい認識ではありません。HPVによる感染は、非常にありふれた感染で、特に性のモラルとは必ずしも関係しないものなのです。子宮頸がんは女性であれば、誰でも罹患する可能性がある病ですが、ワクチンで予防できる病気の一つです。このHPVワクチン(サーバリックス®:3回接種)は平成21年10月に認可され、平成21年12月22日に発売されました。セクシャルデビュー前の接種が効果的ですが、既に性交経験のある女性(これを読んでいるお母さん方)でも効果は期待できることも覚えておいてほしいことです。

病気がワクチンで予防できるというのは、素晴らしいことです。しかし、Hib も含め、接種料金が大きな壁になっています。この少子化の時代に、子どもを大切にすることを訴え続けなければなりません。患者の会や小児科医の活動によってワクチンの重要性が認識され、Hib ワクチンでは既に自治体の補助を受けることができる地域があります。また、現在待合室で「細菌性髄膜炎関連ワクチンの定期接種を求める請願署名」(細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会)をお願いしています。このような取り組みによって、子ども全員が必要なワクチンを受けるような日が来ることを願っています。皆さんも、ご是非協力をお願い致します。

**2月のお知らせ**

- ・医学生実習  
**2月中旬(日程未定)**  
よろしくご協力をお願いします。
- ・栄養育児相談  
毎週水曜日 13:30～  
栄養士担当 無料

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』

## 読者の広場

先月は、9通のメールを頂きました。プライバシーや医療相談に関わるメールが多かったので、1通だけ紹介します。若林区の相原さんからのメールです。少しプライバシーに関わることですが、快く掲載の許可をいただきました。「先生今晩は！今日は（いつも）お世話になりました……。璃空・太嬢の母です。いつも、いつも璃空を気遣って、声をかけて下さってありがとうございます。先生と話しができる日は、嬉しいと同時に『今日の先生！元気そうで良かった!!』と激務の中でも、気にかけて下さる先生に色々な安心を頂いて帰っております。更に、こんな母にお褒めの言葉！涙が出る程嬉しかったです。実は今日、学校で色々ありまして...先生方と話しをし、考えさせられたら1日ただただに、川村先生の言葉は、かなり心にシミました!!。本当に良いタイミングで先生との会話が気持ちを切り替える切っ掛けとなりました。(先生は心がよめるの？笑)実は、去年の今日も同じ様な事があったんですよ(びっくりですが、いつも誕生日を狙って受診しているわけではありませんよ笑)お陰様で良い誕生日をおくれました。これからも無理をなさらず頑張ってくださいね。では遅くに失礼しました。」内容は本人以外にわからないかも知れませんが、「こんな母親にお褒めの言葉」と書いてありますが、お付き合いが長くなるとお母さんがどんな人なのかわかってしまいますよ。いいお母さんですから、自信を持ちましょう。クリニックは病気のためだけで受診すること以外に、何か持って帰れるといいですね。



## 予防接種のお知らせ

日本脳炎ワクチンが、4月から積極的勧奨に戻る予定です。そして、マウスの脳を用いたワクチンが、3月初旬に無くなります。この時期をきっかけにして、ワクチンを積極的に接種することを勧めます。

対象者	標準期間(年齢の範囲)	回数
1期 初回	3歳～4歳(6～90ヶ月)	2回
追加	4歳～5歳(6～90ヶ月)	1回
2期	9歳～10歳(9～13歳)	1回

## 見直されるワクチン (一面記事の追加)

もうひとつは日本脳炎のワクチンです。科学的な因果関係は不明なものの、マウスの脳を用いた日本脳炎ワクチンで重症ADEM(急性散在性脳脊髄炎)の症例がでたため、より慎重を期するため平成17年5月に日本脳炎ワクチンの積極的な勧奨を差し控えることになりました。多くのお母さん方は中止と理解していたかも知れませんが、小児の日本脳炎患者の発生もあり西日本を中心に希望者に定期接種として続けられていました。この副反応の問題を受けて、細胞培養による新しいワクチンが開発されました。このワ

クチン(ジェービックV®)は平成21年2月に認可され、既に6月から使用されています。しかし、供給体制の問題から、現在3～4歳代の1期の初回接種のお子さんのみ適応となっています。5才以上、追加接種、2期では、従来型を使用することになっています。ただ、3月には従来型の在庫が無くなるため、以後は新しいワクチンの使用しかできなくなります。また、確定的ではありませんが4月からは積極的勧奨の差し控えが無くなるようです。どちらにして大切なワクチンなので、積極的に接種することを考えたいものです。積極的勧奨の差し控えによって接種時期を逃したお子さんに対して救済が行われる予定ですが、まだ確かなものではありません。時期を外れたお子さんは、慌てずもう少し待ってから考慮してもよいでしょう。

## お母さんクラブのご案内

### 子どもによくみられる病気と症状と対処法

2月25日(木) 14:00 福沢市民センター

毎年定番のテーマです。子どもの病気を知ることで対応の仕方は、子育ての基本中の基本です。毎年同じテーマですが、新しい予防接種のこともお話ししましょう。毎回緊張感を高めるために、指して答えてもらいます。その方が、しっかり覚えられますよ。初めての参加はもちろんのこと、以前参加した方々にも役立つこと請け合いです。今回は会員以外の参加も可能です。お友達を誘いあって、是非参加してください。

## 200号記念誌原稿募集

新聞を発行して16年が経ち、来年の3月で200号を迎えます。200号記念紙を予定していますが、皆さんの協力をお願いします。

当院との思い出、日頃感じていること、お子さんの話、など。文章だけでなく、写真やお子さんの作品等、何でも結構ですので、是非お寄せください。

締め切りは2月20日まで。クリニックに持参しても構いませんが、メール(patient@kodomo-clinic.or.jp:携帯からでも大丈夫)

多くの投稿をお待ちしています。よろしく、お願いいたします。

## 臨時休診のお知らせ

3月6日(土) 日本外來小児科学会役員会(下関)

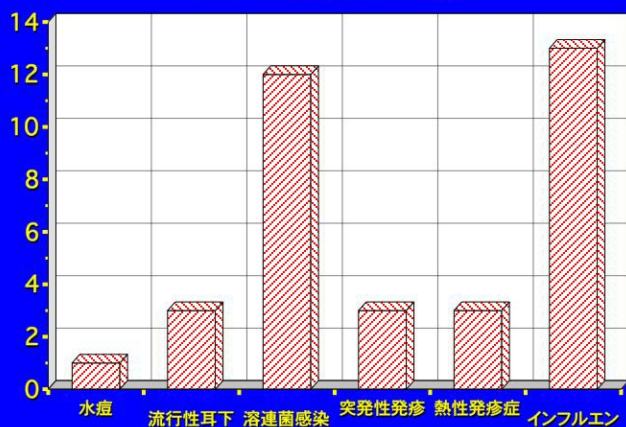
交通の便のため午前中に出なければなりません。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 編集後記

新聞の発行遅れてしまいました。なんかやかんやと、雑用(といっても仕事ですが)で、忙しくしていました。土日も会議や学会が入って、ちょっと大変です。これも自分で招いたものですから、仕方ないとあきらめ気分です。4月から仙台小児科医会の会長になりそうですし、7、10月には小さい学会を開催します。3月には下関で役員会、郡山では講演会です。本当にご迷惑をおかけします。



## 1月の感染症の集計



水痘、おたふくは増えていません。溶連菌感染症が増えてきています。インフルエンザ著明に減って、12月の10分の1、ピークの11月の20分の1に減少しています。仙台市の学童の40～50%が罹患したという報告があります。不顕性感染があることを考えれば70%ぐらいは感染しているかも知れません。季節型は、現在のところありません。当院では協力をいただいた場合には、新型か季節型かの検査も大学と協同で行っています。新型が出ると季節型が消えるということもあり、今後の流行も予測できない状況です。インフルエンザにかわり、ノロなどの感染性胃腸炎が増加しています。グラフには示していませんが、1ヶ月で60人ぐらいの患者さんがみられました。

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『小学校入学前にも麻しん風しん混合ワクチンを』  
Ⅲ期(中学1年生相当)、Ⅳ期(高校3年生相当)も忘れずに!